

平和人権教育と国際連帯部会

研究テーマ「平和・人権・国際連帯の広がりをめざして」

I 研究の内容

- 1 部員それぞれ一人一実践を行い、部会で報告し、研究討議を行った。毎回最後に手塚茂松校長先生（奥野田小）、八巻登教頭先生（山梨小）に指導助言をいただいた。

実践発表者 6月11日 三枝剛（勝沼小）
 9月 3日 岩下城（牧一小）統一授業研
 9月24日 雨宮由縁（井尻小） 中村裕司（玉宮小） 広瀬剛（牧三小）
11月26日 前島国学（菱山小） 岡安男（三富小）
 1月28日 太田一美（井尻小）統一授業研
 2月18日 高添勉（大和小） 岡ひさ江（菱山小）

- 2 7月1日には「第27回 甲府空襲 戦争と平和 環境展」の視察を行い、身近にあった戦争に関し理解を深めた。
- 3 夏季学習会では、JICA 国際協力出前講座として山梨青年海外協力隊協会事務局長松本公夫先生を講師に招いた。アフリカの現状、ケニアのスラム街、ガーナでの協力隊の活躍状況、JICA の OB 山梨県内での活動状況、その他様々な国の現状や課題等について詳しく講義をしていただいた。

II 成果と課題

平和・人権、国際連帯と今年度も多様な実践を各自が行うことができた。どの実践も今日的な課題からアプローチができた。

出前講座として山梨青年海外協力隊協会（JICA）の講師の協力を得たり、甲府空襲展視察をしたりなど、学校内での実践と併せ積極的に様々な分野から研修に努め、研修が深められた。出前講座では、途上国などの暮し、文化についての学習だけでなく、言葉を使わずとも仲良くなれるゲームなど、実際に行いながら学習できた。コミュニケーションは言葉だけに頼らなくてもよいことが体験を通して学ぶことができた。

個人では知らなかったことも実践発表として様々な分野の学習ができた。授業のための資料を集める時の参考にもできた。

2回の授業研と各教師の実践発表を学習でき、とても良かった。多岐にわたり、様々な視点から人権について考えることができた。平和・環境、国際連帯という教科書のない授業なので、

各教師の経験豊富で工夫された授業が何より学習になった。

教科や領域にとらわれない様々な場面での実践が提案され、共通の課題・目的に向かって学習会を持てた。また、討議においても自由な雰囲気の中で行われ、たくさんの意見が出された。部会の人数が多からず少なからず、活発な意見交換ができた。

一人一人の目的意識も高く、実践内容がすばらしかった。お互いに理解を深め、今後の自分の実践として役立てられるような内容ばかりだった。

少人数の部会の中、2回の授業研究をすることができたが、テーマにある「広がりをめざして～」という点で、まだ課題が残る部分があるのではないかと。様々な分野から実践が行え多岐にわたり学習することができたが、部員が各職場でこれからも働きかけを行ったり、授業実践をしたりしながら広げていくことが大切ではないかと思う。

せっかくよい実践をそれぞれ行ってきたので、平和・人権・国際連帯の資料収集の積み重ねができると、より研究を深められるのではないかと。

III 成果物

1 牧一小 岩下城先生 第3学年 特別活動

「言葉のキャッチボール」 ～ねえねえ聞いて！～

子どもたちの日常生活から言葉について考えさせたい場面を設定し、互いに気持ちのよい会話(やりとり)について考える研究授業が行われた。授業者の価値を押し付けるのではなく、子どもたちが自主的に相手を思いやる言動を考え、行うことができた。授業者の普段からの静かに語りかけるように話す姿勢、対応も、子どもたちが集中して聞く姿勢を取ると同時に人権教育に関し理解を深められるすばらしい研究授業であった。子どもたちは何気ない話し方、聞き方一つで相手に与える印象が大きく変わることを体験し、これからの友だちへの接し方に生かそうと生き生きとしていた。その後の討議においても、教室や子どもたちの雰囲気、全て子どもの言葉で授業が流れるように仕組まれてあった授業内容などについて良かったという意見が多数出され、研究同人にとっても貴重な授業実践になった。

2 井尻小 太田一美先生 第3学年 道徳 「いのち」

「電池が切れるまで」の中にある、病気で余命わずかな4年生の女の子が書いた詩を題材に、子どもたちが自分と重ね合わせて命について深く考えられるすばらしい授業であった。誰にでも当たり前のようにある一つの命が、実はどれほどかけがえの無いものであるか、それぞれ真剣に感じることができた。研究討議では、すばらしい資料・教材が準備できていて、出すタイミング・順番もとても良かった、指導者の話術もとても良かった、子どもをしっかりと把握した上での授業の構成がよくなされていて、子どもに残る良い授業だった、などの意見が出された。ぜひ自分の学校で同じ内容の授業をしてみたいという意見も多く、部員全員にとって非常に価値ある授業であった。

(部長 三枝 剛)